学校だより

～ ひびきあう心　かがやく笑顔　ふれあいの丘　斎藤分 ～

令和５年　９月　２９日　　１０月号

横浜市立斎藤分小学校　校　長　　黒木　健

「振り返り」を書くことから学んだこと

校長　黒木　健

少しずつ秋の訪れを感じられる気候となってまいりましたが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて今月の学校だよりは、「振り返りを書くことから学んだこと」と題して、お届けいたします。

私が大学生だった時のことです。毎回、講義の終わりの５分程度を使って、その当時、リアクション・ペーパー（Reaction paper）と呼ばれていた「振り返りシート」を記入し提出することが、大部分の講義で求められていました。これは、私が学んでいた文学部だけではなく、他学部・他学科においても広く求められていた「振り返り」方法のようで、A４の半分サイズ（１５行程度）の用紙に、その講義の内容要約やそれに対する自身の見解等を自由に記載するというもので、講義によっては、それを英文で記載するよう求められることもありました。１年生の最初の頃は、その紙面にうまく収まるよう書くのに苦慮した時期もあったのですが、コツを掴んでからは、それこそ５分程度で書き上げることができるようになってきました。そのコツについて端的に言えば、例えばですが、先ずは、その講義の中で度々登場したキーワードやそれの意味するところを最初に明記し、次にそのキーワードと自分との関わりや、肯定または否定それぞれの立場から、それに対する見方・考え方を働かせていくといったような思考パターンを整えておくということ等が挙げられます。

大学４年間で何気なく書き続けたこのリアクション・ペーパーが、最終的にどれ程の枚数に上ったのかは判然としませんが、これらを書き続けたことから、文章を書く際のエッセンスを得たような気がしています。約９０分の講義内容について、レポート用紙３枚程度にそれを収めることと、このA４の半分サイズ（１５行程度）に収めることのどちらが難しいかと言えば、私は後者なのではないかと思います。約９０分の講義で語られる内容は相当な物量であり、それをコンパクトにまとめるには、それなりの文章構成スキルが求められるはずだからです。では、どうすれば相応の文章構成スキルを獲得することができるのか、そのためには、一定のルールにしたがって文章を書くトレーニングを積む以外に方法はないと思っています。その一定のルールとは、例えば、１.先ずは、必要としている情報を選択してインプット、２.そしてそこで得た情報を頭の中で求められる文章量や文体などに則して再構築、３.それからそれをアウトプット、４.最後にアウトプットしたものを文章上で細部を整えるなどの微調整を施して完成という流れです。

今の子どもたちは、私の子ども時代とは比較にならない程、多くの情報に触れながら日々生活をしています。一般に情報量が多いことの方がそのメリットは高いと思われがちですが、逆に情報過多になり過ぎたことで、自分にとって今必要な欲しい情報の選択に迷い、先の例１で言うような必要な情報をインプットする段階で立ち止まってしまうことも考えられます。今後は、自分が今どのような情報を必要としているのか、情報を比較衡量するスキルも一層求められることでしょう。とは言え、いきなりそうした「情報リテラシー」を身に付けることも容易ではないことから、やはり日々の学習の中で、例えば、先に示したような手順も参考にしていただきながら「振り返り」を大切にした学習や、加えて、アウトプットするトレーニングを積み上げていくことが、時間はかかれど着実な学習方法なのではないかと考えます。ふと、大学時代の「リアクション・ペーパー」のことを思い出し、今月はこのようなことを書いてみましたが、何かの参考になりますと誠に幸いです。